

V 調布市立上布田保育園

第1 総括

近年は、保育園・認定こども園等を卒園する子どもの数のほうが、幼稚園を卒園する子どもの数より多くなっているといわれている。調布市でも驚くような早さで認可保育園が作られ待機児童対策に力が注がれており、保育園卒園児の割合も急激に高くなっていくことは間違いない。そのことにより、保育園での保育や幼児教育への関心が高まってきており、引き続き「保育の質」を高めていくことに力を入れていくことは重要なポイントである。

このような中で、今年度も保護者支援と園内研修に力を注いできた。中でも保護者といろいろな思いを共有でき、そのことが保護者支援や保育の質の向上など様々なことへと繋がっていく保育士体験は、今年度、参加者が延べ56人、家庭数での参加率は、昨年度の35%より15ポイント上回り、50%の参加があった。今後も保護者への参加を促し、保護者との距離を縮め、一緒に子どもたちの育ちに力を注いでいける関係作りを進めていきたいと考える。

1 子どもが安心して過ごせる場

子どもたちが安心して過ごすには、まず保護者の信頼を一日でも早く得ることと考え、入園した時点から、保護者に「保育園と共に子育てをしていきましょう」という姿勢を示し、コミュニケーションを密にしながら、積極的に信頼関係を築いている。また、行事も保護者参加の内容を多くし、楽しさを子ども・保護者・職員みんなで共有することを積み重ねてきた。保護者の安心は子どもにも伝わり、子どもたちは伸び伸びと自分らしさを表現し、過ごすことができた。

また、小さなケガでも見過ごすことなく再発防止に努め、受診ケースが過去最少の2回に留まった。毎月の園庭整備で危険箇所をチェックし、不具合のある箇所はすぐに整備するようにした。「事故連絡ノート」による職員間での情報交換、事故についての記録・分析が成果に繋がったと考えられ、今後も引き続き行っていく。

2 子どもによる自主的・自発的な活動への取組

小さな子どもでも興味のある玩具はすぐに手に取れるようなコーナーを作り、発達に見合った遊びの提供を心掛けた。また、幼児クラスでは廃材遊びに力を入れ、自分の思うように作品を作ったり、作ったもので遊ぶ楽しさを味わった。

また、幼児クラスの行事では話し合いや準備を自分たちで行い、作り上げる楽しさを経験した。

3 様々な経験を通しての子どもの成長・発達にあった保育

それぞれの発達に合わせて室内のコーナー作りを変化させたり、散歩先の選択を工夫することで年齢に合った活動をし、発達を促してきた。また、幼児クラス

では行事の話し合いや準備を職員と共に自分たちで行い、作り上げる楽しさを経験した。

4 縦割り保育の中での成長・発達にあった保育

一年を通して、同じグループの異年齢児と交流し、助け合ったり、時にはトラブルになったりしながらも異年齢ならではの経験をしていくことができた。小さい子は大きい子に憧れ、次年度に繋がる見通しを持つことができ、大きい子は頼りにされることで自尊心を育てられたと手応えを感じられた。

5 保護者の子育て支援

毎日の保護者とのコミュニケーションや連絡帳を通して、子育ての楽しさや悩みを共有することで信頼し合える関係作りを進めてきた。

保育参観や保育士体験では、日々の保育を見てもらうことで保育園への理解を深めることができた。また、子どもへの対応の仕方を学べたという声も聞かれた。

第2 経営実績

1 定員

(単位：人)

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	計
定員	6	10	12	18	22	22	90
実数	8	12	14	23	20(1)	21	98

※()内は、障がい児の受入れ数

2 利用率

(単位：%)

事業名	平成28年度 実績	平成27年度 実績
上布田保育園	108.7	108.7

3 人件費率

(単位：%)

区分	平成28年度 実績	平成27年度 実績
上布田保育園	80.4	77.1

※ 事業活動計算書から算出

第3 事業報告

1 重点事項への取組

(1) 経営理念・経営方針・保育目標の徹底

本園は「子どもが伸び伸びと健やかに成長する基礎を形作っていく」を保育理念に掲げ、そのために「子どもの人格を尊重し、最善の利益を考慮した保育を行う」を保育方針とした。

そして、保育活動を行った後に、それを反省する視点として「子どもにとってはどうだったのか」を常に想起し、その視点に立って振り返ることになっている。年々、行事等が改革され、子どもにとって過ごしやすい保育となっていると考える。

(2) 縦割り保育

少子化や核家族、近隣とのつながりが薄い中、地域での縦割りの関係が作れない現代社会において、異年齢で過ごすことの必要性を感じ、例年同様3グループに分け、縦割り保育に取り組んだ。

4月から3，4，5歳児クラスは縦割りグループでの生活を行ってきた。無理なく新しい生活に馴染んでいけるよう、4月初旬は縦割りでも過ごす時間を長めに設け、グループでの人間関係を築き、安心・安定した生活リズムを整えてから徐々に年齢ごとの活動時間を作っていくようにした。

午前中は年齢の発達に見合った活動を行うため、同年齢のクラスで活動を行い、昼食時からは縦割りグループで生活している。時には異年齢のクラスの子どもたち同士と一緒に散歩に出掛けたり、同じ縦割りグループの子どもたちと遊んだりした。また、0，1，2歳とも活動を共にする機会も作り、様々な子どもたちと過ごすことで人間関係の育ちを見守ってきた。

(単位:人)

区分	コアラグループ	バンビグループ	キリングループ	計
3歳児	7	8	8	23
4歳児	7	6	7	20
5歳児	7	7	7	21
計	21	21	22	64

(3) 障がい児保育

今年度は支援を必要とする障がい児は1人であった。また、子ども発達センターから保育園体験児を2人受け入れ、交流保育を行った。

ア 生活、活動の中での様子、検討したいことなどを個人記録としてまとめ、作業療法士に目を通してもらい、月1回の来園時にその記録を基に子どもの様子を観察してもらった。

その日の午後のケース会議にて専門的な視点で子どもへの支援方法、指導の仕方等のアドバイスをもらい、日々の保育に活かした。

イ 保護者からの要望や希望があるときは、職員を通して作業療法士への相談等も受け、子どもにとって最善の支援を一緒に考えていくようにした。

ウ 必要に応じて、関係する療育機関と連絡を取り、お互いの状況を把握する中で、日々の保育、療育に活かせるようにした。

障がい児の状況

(単位：人)

3歳児	4歳児	5歳児
0	1 (1)	0 (1)

* () は保育園体験児

(4) 世代間交流

今年度も年長児21人が調布八雲苑に月1回訪問し、歌の発表をしたり、ふれあい遊びやカード遊び、コマやけん玉など、日ごろ保育園で行い親しんできた遊びを、利用者の方々と共に楽しんだ。また、恒例行事である「おじいちゃんおばあちゃんと一緒に遊ぼう会」では、毎年多くの方に参加して頂いており、今年度も園児の祖父母42人を招き、手遊びや昔遊びを楽しみ、会食を行った。

この他、地域との交流も兼ね、毎年参加している「調布ヶ丘敬老わくわく広場」では、4歳児がダンスを、5歳児が太鼓の披露を行った。

(5) 地域交流事業（地域の子育て支援の充実）

ア 保育園体験

地域の親子を対象に0歳児、1歳児、2歳児クラスに各5組ずつ受け入れ、月1回在園児と一緒に活動に参加する「保育園体験」を行い、園児、担任との交流を持った。

また、誕生会にも参加し、園児と同じように誕生日カード、かんむりを渡し、誕生日を園児・職員皆でお祝いした。

月1回、定期的に活動に参加することで、園児との繋がりが築けるとともに、参加者同士の関係づくりもできた。また園児との交流の中で、子育ての見通しが持てるようになった。担任と話す機会を多くとることで、日ごろの育児の悩みなど、気軽に相談できるような関係づくりができた。

育児休業中を利用しての参加者も多く、次年度の入園申し込みにつながるケースも多くみられた。

保育園体験の状況

(単位：組)

保育園体験	参加者	誕生会	参加者
5月26日	11	5月19日	
6月21日	8	6月16日	3
7月21日	5	7月14日	
8月30日	中止	8月25日	
9月27日	9	9月15日	
10月18日	9	10月20日	1
11月24日	中止	11月17日	1

12月15日	中止	12月8日	
1月27日	11	1月19日	1
2月21日	8	2月16日	1
3月16日	8	3月9日	1
延べ人数	69	延べ人数	8

※ 感染症の流行が見られる場合は中止とした。

イ 給食体験

(ア) 離乳食体験

初めての離乳食を始める地域の子育て中の親を対象に、栄養士、保育士による離乳食の開始時期の目安、初期食、中期食の進め方、実際の調理方法などを学んでもらった。2回を1セットとして募集をし、1回目の講習は離乳食を始める前、2回目の講習は実際に離乳食を始めてからを受けてもらう形をとった。分からないことや困っていることを聞きながら理解を深められ、中期食へと移行していくという形式が好評で、十分な支援ができたという手ごたえを感じた。

離乳食体験の状況

(単位：組)

実施日	参加者
9月29日	8
11月29日	8

(イ) 乳児食体験

地域の乳児とその親を対象に、給食を園児と同じ環境で一緒に食べる機会を設けた。

乳児食の味つけや量を体験したり、その他、お便りを通して環境設定や食具についても情報提供した。

乳児食体験の状況

(単位：組)

実施日	参加者
6月8日	3
6月22日	2
10月13日	0
10月27日	1
2月9日	4
2月23日	2

(ウ) 保育講座

毎年恒例となった科学遊びやミニ音楽会、親子ヨガなどは参加者数も安定していた。ミニ音楽会は子どもたちの知っている曲を演奏し、子どもたちも喜び、とても盛り上がった。

今後は親子で楽しめる講座を中心に、内容を検討していく。

保育講座の開催状況

(単位：人)

月 日	講 座 名	参加人数
5月 21日	親子で楽しむ科学遊び「風船スライムで遊ぼう」	17
6月 18日	リズム遊び	11
9月 24日	ミニ音楽会	58
11月 5日	わらべうた	14
11月 19日	親子ヨガ	24
1月 27日	講演会「子育ての要諦」(兼職員研修)	20

(6) 待機児解消対策

定員90人のところ、待機児解消対策として0歳児2人、1歳児2人、2歳児2人、3～5歳児を2人、計8人を定員外で受け入れている。園児の受け入れについては後述の「園児の受け入れ状況」とおりである

(7) 実習生、中高生の保育士体験の受入

実習生及び中高生の保育士体験希望の申し入れがあった際は、事前にオリエンテーションを行い、積極的に受け入れをした。

受け入れた実習生は保育養成学校5人、中学校の職場体験や、サマーボランティアなどで、中学生8人、高校生1人、大学生1人を受け入れた。また、三菱東京UFJ銀行の新任研修として4人、慈恵医大看護師の保育研修として4人を受け入れた。年間を通しての合計は23人であった。

2 実績報告

(1) 園児の受入状況

月別の園児受け入れ状況は次のとおりである。

(単位：人)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
受託児	5歳児	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	252
	4歳児	20	20	20	20	20	19	19	20	20	20	20	238
	3歳児	23	23	23	23	23	23	23	23	23	23	23	276
	2歳児	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	168
	1歳児	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	144
	0歳児	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	96
	計	96	98	98	98	98	97	97	98	98	98	98	98

(2) 園児の健康報告

ア 感染症

全国的にもノロウイルスによる胃腸炎が大流行だったが、園でも幼児クラスを中心に流行した。家族内で感染が拡大したケースも多く、終息するまでに時間を要した。

1月から2月にかけてインフルエンザA型が流行し、31人中、26人は幼児クラスでの発症であった。早朝や延長での合同保育や、縦割り保育の中での多交流な生活も流行の要因となった。流行期の園児の導線を考察し、感染が拡大しないように年齢別の最小限の交流での生活が可能かどうか検討し、今後の課題としていく。

感染症発症状況

(単位：人)

水痘	3	RSウイルス感染症	1
溶連菌感染症	12	突発性発疹	5
ヘルパンギーナ	4	伝染性膿痂疹	8
手足口病	3	胃腸炎	38
流行性耳下腺炎	1	伝染性紅斑	1
インフルエンザA	31	インフルエンザB	10

イ 受診ケース

年間で2件だったのは過去最少であった。日々の怪我記録簿を活用し、ヒヤリハットケースを職員間で周知した。また、同様のケガが発生しないように園内の環境を点検、整備し、安全対策を講じてきたことが減少に繋がった。

受診状況

月 日	年齢・性別	項目	受診先
5月25日	3歳児男児	左肘内障	整形外科受診
2月22日	1歳児男児	散歩先公園で転び左目尻切傷	外科受診

ウ その他

検査名	時期	人数	結果
ぎょう虫卵検査	5月	98人	全員陰性
ぎょう虫卵検査	10月	98人	全員陰性
尿検査	6月	67人	1名陽性
歯科健診	5月	91人	虫歯あり5人
歯磨き指導	6月	受けた園児 63人 受けた職員 9人	
歯科健診	11月	86人	虫歯あり5人
歯磨き指導	11月	受けた園児 60人 受けた職員 11人	

(3) 年間行事報告

一年間に実施した行事は次のとおりである。

月日	項目	内容
4月2日	入園進級式 (保護者会を兼ねる)	曇り空の下ではあったが雨に降られることなく、桜の木の下でお祝いすることができた。昨年のように園児と保護者が対面する形をとり、保護者から子どもたちの表情がよく見え、保護者の笑顔の多い会となった。 さくら組のダンスもみんなに披露できた。
5月14日	ふれあい遠足	今年度は近隣の小学校の行事との兼ね合いにより、5月に行った。深大寺の自由広場にて全園児の家族が集まり、職員のギターに合わせて体操を行い、和やかな雰囲気が始まった。その後、親子でコーナー遊び(たこあげ、相撲、シャボン玉等)を楽しんだ。昼にはクラスごとにお弁当を囲み、保護者同士、職員との交流が深まった。
5月10日～ 19日	クラス懇談会	進級・入園から2か月を経てのクラスの様子を伝え、保護者との意見の交換を行った。より多くの保護者が参加できるよう、全クラス夕方時間に設定した。
6月23日	プール開き	あいにくの雨となったが、幼児クラスがホールに集まり、プールを使う時の約束を話し、これからの安全を確認しあった。

月日	項目	内容
7月16日	夏祭り	絶好の夏祭日和に恵まれた中での開催となった。恒例となった職員によるオープニングは、男性職員を中心に職員一同で踊りながらお店紹介を行った。楽しい雰囲気を醸し出し、大好評であった。その後、5歳児の手作りゲーム屋、職員のゲーム屋、手作り玩具の店を、おもちゃの財布とお金を持ってまわり楽しんだ。父母会との共催ということで父母の店「かき氷屋」もとても繁盛し、盛り上がった夏祭りとなった
7月29日～ 30日	お泊り保育	5歳児21人がお泊まり保育を行った。初めての保育園お泊りで親も子も不安と期待の中、当日を迎えた。今年は虫に興味のある子が多く、布多天神に許可をもらい、夜に仕掛けをして早朝捕獲しに行った。クワガタが一匹かかっており、その後卒園するまでクラスで飼った。夕食は自分たちが作ったカレーを食べ、その後園内全体を使っておぼけ宝探しゲームを行ったり、花火大会をしたりするなど、いろいろな思い出を作り、楽しんだ。 子どもたちは翌朝のお迎えの時には楽しかったという感想を親に話していた。
9月16日	おじいちゃん、おばあちゃんと一緒に遊ぼう会	園児の祖父母42人の参加で、過去最高の申し込みであった。始めに全体でふれあい遊びを行った。その後、各コーナー遊びに分かれて、祖父母と昔ながらの伝承遊びを楽しんだ。 その後、年長児が「和太鼓」の演奏を行い、昼は園児との会食、美味しいと好評であった。
10月10日	運動会	雨で順延となり、2日後の開催となったが、父母の参加も多く父母競技にもたくさんの参加があり、大人も子どももみんなが楽しめる会となった。それぞれの年齢の発達や4月からの積み重ねが披露され、大きく成長した喜びを分かち合えた。 道具運びや司会、競技の手伝いを5歳児が行い、年長らしい姿を見せ、回りの大人から賞賛された。
10月28日	秋の園外保育	(乳児) 園庭にて、いも掘りごっこを楽しんだ後、楽しみにしていた弁当を食べた。 (幼児) 片道40分ほど歩いた所にある越山農園へ行き、いも掘りを楽しんだ。園に帰ってから園庭でお弁当を食べた。
10月30日	いも煮会	いも掘りで収穫したサツマイモや野菜などをちぎって使ったり、包丁を使ってニンジンを切ったり、子どもたちが調理に参加し、青空の下、園庭で会食した。おかわりする子が多かった。
11月1日～ 11月18日	全クラス個人面談	午睡(13時～15時)の時間を利用し、保育園の様子や家庭での様子についてお互いの情報交換をした。
12月3日	親子で一緒に楽しむ会	なかなか参観できない保護者のために“大きな保育参観日”として設定した行事。それぞれのクラスで親子で楽しめる企画も盛り込み、一年の成長を味わいながら楽しい一日を過ごした。
12月9日	もちつき	新しい年を迎える前に餅をつくことの意味を知り、餅つきを体験した。子ども用の杵を使い、自分たちでつく楽しさを味わった。今年も自分たちでつ

月日	項目	内容
		いた餅を再加熱し、給食で味わった。とてもおいしく、子どもたちもたくさん食べていた。
12月22日	クリスマス会	ホールにて全園児が集まり、クリスマスの雰囲気を楽しみながら、職員による楽器演奏やオペレッタを楽しんだ。そこへサンタクロースが登場し、各クラスへ玩具のプレゼントを渡し、その後、記念写真を撮った。玩具は“サンタさんからの贈り物”として各クラスの遊びで大いに活躍している。
1月11日	新年会	昔から行われてきた伝承遊びやお節料理の意味など、新年についての日本の伝統を子ども達に伝えた。その後、園庭や室内でたこあげ、羽根つき、独楽回し、カルタ、福笑いなどの正月ならではの遊びをみんなで楽しんだ。
1月27日	観劇 劇団「たんぼぼ」	父母会共催。今年もかぜの影響がなく0歳児から参加した。地域の方も加わり、劇団たんぼぼの本格的な人形劇を楽しんだ。
1月28日	全体保護者会	昨年と同様に園長の挨拶の後、各クラスの担任から本年度の成果や、次年度へ繋げていくことなどを話した。また、保健、給食からも1年を振り返って話をした。 今年子ども達の育ちを一本の木に例え、0歳児から順につけていく力を話し、最後に花を咲かせるまでを系統だてて説明した。分かりやすいと好評だった。また、保護者から一言ずつ感想を述べてもらったところ、どの保護者も園への感謝の言葉が続き、職員も励まされた。
2月7日～ 15日	クラス懇談会	5月と同様に全クラス夕方時間に時間を設定し、一年の成長や進級、就学に向けての話を中心に情報交換を行った。
3月3日	お別れ遠足	(乳児) 0,1歳児は園庭、2歳児は富士見公園にお散歩に行き、その後、園内でお弁当を食べた。 (幼児) バスを貸し切りサンシャイン水族館へ行った。たて割りグループで館内を見学し、アシカショーを楽しんだ。その後お弁当を食べ、楽しい思い出を作ることができた。
3月17日	就学を祝う会	就学児、在園児(3,4歳児)、職員みんなで会を創り上げ、保護者とともに就学する喜びを分かち合うことができ、和やかな会となった。就学児は自信に満ち溢れ、在園児は憧れの眼差しで就学をお祝いし、子どもたち自身が成長できるよい機会となった。
定例	誕生会	その月生まれの園児、保育園体験の子どもたちの誕生をみんなで祝うことで大きくなった喜びを共感しあった。
	伝統行事	こどもの日、七夕、節分、ひな祭りなど季節の伝統行事において、それぞれの意味、内容について話を聞いたり、製作や歌を歌ったりして楽しんだ。

(4) 研修体系

「(5) 研修の状況」を体系別に表すと次のとおりである。

体 系		内 容 (下記の数字は、「(5) 研修の状況」の「No」を表している。)	回数
一般研修	現任職員研修	1,2,3,5,6,7,8,12,13,14,15,16,17,19,20,21,26,27,29,31,32,34	22
	副主任研修	21,25,26,31	4
	主任研修	4,9,10,18,24,26,28,30,33	9
	副施設長研修	11,21,35	3
	施設長研修	23	1
専門研修	保育士研修	1,3,5,6,7,8,11,12,13,14,15,16,20,21,22,25,26,27,29,31,32,33,35	23
	看護師研修	6,2,6,8,17,34	5
	栄養士研修	4,9,10,18,24,28,30	7
	調理担当職員研修	19,31	2
職場研修		年間 5 回の園内研修(実践研修)及び全体研修	5
研修参加合計		研修参加人数 合計 55 人、延べ参加人数 58 人	82

(5) 研修の状況

研修への参加状況は、次のとおりである。

なお、この他に職員全員参加の園内研修として「子育ての要諦について」をテーマに外部講師を招いて講習会を実施し、「エピペン・AED講習会」を各自1回ずつ実施した。また、職員全員によるレポートをもとに事例検討会を3回実施し、「かみつきについて」をテーマに討論形式での研修会を1回実施した。

(単位：人)

No.	月 日	内 容	主 催	人数	延べ
1	4月28日	エピペン投与シミュレーション研修	調布市子ども政策課	1	1
2	5月7日	東京都小児保健協会学術講演会	東京都小児保健協会	1	1
3	5月17日	離乳食の進め方について	調布市保育園協会	2	2
4	5月31日	栄養管理講習会	東京都多摩府中保健所	1	1
5	5月31日	子どもの摂食嚥下	東京都多摩府中保健所	1	1
6	6月1日	子どもの睡眠について	調布市役所保育課	2	2
7	6月2日	現場で役立つ、盛り上がる手遊び・歌遊び・体遊び	調布市保育園協会	4	4
8	6月3日	小規模プール衛星管理講習会	東京都多摩府中保健所	2	2
9	6月21日	給食担当者講習会	東京都社会福祉協議会	1	1
10	6月29日	栄養管理講習会	東京都多摩府中保健所	1	1

No.	月 日	内 容	主 催	人数	延べ
11	7月 15日	保護者のホンネから学ぶ保護者支援	東京都社会福祉協議会	1	1
12	7月 21日	保育と笑い、保育を楽しむために今伝えたいこと	調布市保育園協会	2	2
13	7月 28日	ことばを育てる 子どもを育てる	東京都府中けやきの森学園	2	2
14	7月 28~29日	乳児保育担当者研修会	日本保育協会	1	1
15	8月 4日	特別な支援を必要とするお子さんの理解とその具体的支援	調布市子ども発達センター	1	1
16	9月 15日	発達障がい児の発達支援について	調布市保育園協会	2	2
17	9月 28日	アトピー性皮膚炎について	公益財団法人東京都福祉保健財団	1	1
18	10月 7日	給食担当者講習会	東京都社会福祉協議会	1	1
19	10月 7日	食でつなげる、食でつながる	東京都社会福祉協議会	1	1
20	10月 7日	保護者が子どもと上手に関われるようにアドバイスするには	調布市保育園協会	4	4
21	10月 21日	親子の愛着関係の大切さ	調布市保育園協会	2	2
22	11月 1日	クラスに多数の支援児がいる保育	調布市保育園協会	2	2
23	11月 10~11日	園長管外研修	調布市保育園協会	1	2
24	11月 16日	食物アレルギーについて	公益財団法人東京都福祉保健財団	1	1
25	11月 21日	主任研修会	東京都民間保育園協会	1	1
26	11月 25日	子どものからだのおかしさを考える	調布市保育園協会	3	3
27	12月 6日	遊び歌、集団遊び	調布市保育園協会	3	3
28	12月 9日	給食担当者講習会	東京都社会福祉協議会	1	1
29	12月 9日	質の高い遊びの環境づくりを考える	東京都社会福祉協議会	1	1
30	2月 2日	給食担当者講習会	東京都社会福祉協議会	1	1
31	2月 9日	食育実践研修	東京都民間保育園協会	2	2
32	2月 24日	保育の質を高める研修会	東京都民間保育園協会	2	2
33	2月 28日	気になる子と言わない保育	東京都社会福祉協議会	1	1
34	3月 4日	子どものアレルギー勉強会	慈恵第三病院 小児科	1	1

No.	月 日	内 容	主 催	人数	延べ
35	3月 10~11日	防火・防災管理講習	東京消防庁	1	2
研修参加人数 合計 55人、延べ参加人数 58人					

(6) 食を大切にする保育の推進

本年度も、前年度と同様に、食材を育て(野菜の栽培)、食材に触れ(皮むき、さやむき、米とぎなど)、その食材を利用した給食作り(芋煮会)を実施した。

昼食時、子どもたちの食事マナーや姿勢の実態把握をするために、本年度も職員と一緒に喫食した。

郷土食も積極的に取り入れ毎月献立に加え、いろいろな郷土の味を食してもらった。47都道府県をすべて廻ったので今年度で一度終了とし、今後は次の目標を立てていく。

アレルギーの誤食にも注意を払い、安心して食べられる食事の提供を心がけた。

ア 行事食と郷土食

		行事食	郷土食	
4月			広島県	お八寸
5月	子どもの日	鯉のぼりクッキー	茨城県	煮合い
6月			香川県	いりこ飯
7月	七夕	七夕そうめん	高知県	かつお飯
8月			大分県	だんご汁
9月	防災訓練 おじいちゃん おばあちゃん と一緒に遊ぼう会	非常食 会食献立	佐賀県	呉豆腐
10月	ハロウィン	かぼちゃドーナツ	島根県	呉汁
11月	芋煮会	豚汁		

12月 もちつき 冬至 クリスマス	きなこもち かぼちやの煮物 クリスマス献立		
1月 鏡開き	汁粉		
2月 節分	鬼っこおにぎり		
3月 ひな祭り お彼岸	ひな寿司 おはぎ		

イ 食育

4月	グリンピースむき	10月	サツマイモの皮むき (ピーラーの練習) 2歳：野菜ちぎり 3歳：野菜ちぎり 4歳：ピーラー 5歳：包丁
5月	そら豆むき		
6月	野菜の皮むき (ピーラー) とうもろこし皮むき 米とぎ		
7月	米とぎ 野菜栽培 皮むき (ピーラー)・包丁の練習 玉葱皮むき 枝豆むき お泊り保育での夕飯作り (カレーライス)	12月	米とぎ
8月	米とぎ 野菜栽培	1月	米とぎ
9月	米とぎ 野菜栽培	2月	米とぎ
		3月	米とぎ

ウ 給食でのカロリーの量

子どもが摂るカロリーについては、昨年は1年を前半と後半で分けて考え

てエネルギー等を変えていたが、今年は年間通しての設定とした。

	エネルギー	蛋白質	脂質
乳 児	510	18.5	14.0
幼 児	605	20.0	19.0

エ 食物アレルギー児及び摂食障がい児の状況

卵・小麦に対するアレルギー1人、卵のみ1人、卵・ゴマ1人、卵・乳2人、計5人のアレルギー児に対しての食事の除去、代替食を実施した。

摂食障がいのある園児に対しては、子どもの食べられる状態に合わせて食事を提供した。

(7) 防犯・防災対策

ア 避難訓練

訓練は4月から始め、月を増す毎に設定を細かくし、様々な状況に対応できるようにした。毎月の訓練時には、避難通路状況などを確認し、担当が反省点を文章にして記述し、それを基にして次の年度に改め、訓練に取り入れるようにした。

また、防災計画及び自衛消防組織編成を見直し、地震・火災対策に応じた役割分担をはっきりさせるとともに、震災時の対応についてマニュアルを作り、職員同士の伝達、協力体制を強化した。

他にも、開設時間内と時間外に分け、交通機関が止まった時を想定して職員を配置し、行動、対応を徹底させた。

(単位：人)

月 日	内 容	園児	職員
4月17日	火災訓練、消火訓練	80	17
5月23日	通報訓練、火災訓練、消火訓練	95	20
6月14日	火災訓練、消火訓練	92	20
7月12日	地震訓練、消火訓練	85	20
8月22日	地震訓練、消火訓練	82	19
9月1日	地震・引取訓練、消火訓練	57	22
10月14日	火災・消火訓練	84	20
11月19日	地震訓練(土曜日)、消火訓練	6	3
12月7日	火災訓練、消火訓練	87	20
1月13日	火災訓練、消火訓練	90	19
2月17日	火災・地震訓練、消火訓練	85	23
3月 7日	火災訓練、消火訓練	95	20

イ 救命訓練 (AED)

傷病者を発見してから救急隊に引き渡すまでの訓練を行った。

意識確認→呼吸確認→心肺蘇生→AED、また、119番通報、園児への対応など一つの流れを作り、誰もが処置できる訓練をした。エピペンの対象者がいるため、年度当初からそれを打つ練習も訓練の中に入れた。

(単位：人)

月 日	参加職員数	月 日	参加職員数
6月23日	6	10月13日	6
7月21日	5	2月16日	6
9月15日	6		

ウ 侵入者対策、防犯訓練

事前に園児に内容を伝え、混乱しないように配慮し、不法侵入者役(男性職員)から園児を遠ざけ、危険回避、防衛、110番通報を行い、さすまたや身近なものを使い侵入者を足止めする訓練も行った。

(単位：人)

月 日	園児数	職員数
11月9日	89	22